

平成30年度教育学部プロジェクト推進支援事業

「附属学校改革専門委員会」第3期中期目標中期計画；平成30年度中間報告

「小規模・複式教育に資する教育実習カリキュラムの開発」 (経過報告)

附属学校改革専門委員会：田代高章（教育学部）・阿部真一（教職大学院）

1. 本研究の位置づけ

本研究は、岩手大学第三期中期目標の【16】「地域創生の観点に立ち、地域の教育諸課題を解決することのできる、地域の初等・中等教育機関教員を養成するための実習校としての機能を強化する」と、その下での中期計画の【32】「地域創生を担う初等中等教育機関の教員養成実習校として機能するため、教育学部及び教職大学院と連携・協力して実習カリキュラムを開発し導入する。これにあたっては、小規模・複式教育に資する教育実習カリキュラムの開発や教職大学院における実習カリキュラムの確立等を行う。」、および、中期目標の【17】「地域のモデル校としての附属学校の機能を強化し、先導的・実験的取組を通じた教育・研究を進め、地域の教育課題に応える。」と、その下での中期計画【34】「地域のモデル校として、多様な子どもたちを受け入れ、幼稚園、小学校、中学校という異校種間の接続教育及び一貫教育のあり方や小学校の専科制について調査研究を行う。そのうえで、附属学校の機能を強化するため学級数、入学定員の適正化を図り、教員の適正配置を計画し、実施する。」を実現するための、全学的な位置づけのもとでの研究である。

上記の中期目標・中期計画にしたがって、地域課題の解決にも貢献しうる地域のモデル校としての役割と、地域創生のための附属学校園の機能強化を目指した取り組みを学部と附属校園と共同で進めている。具体的には、①小規模・複式教育に資する教育実習カリキュラムの開発、②小学校の専科制のあり方について、③異校種間の接続教育及び一貫教育のあり方について、の三つの研究テーマに沿って、附属学校改革専門委員会を中心に、具体的な計画の実施に取り組んできた。

本論は、三つのうちの、①に関わる研究成果の経過報告を行うものである。

(以上、文責：田代高章)

2 本研究の内容（途中経過）

(1) 岩手県の小・中学校の実態

平成29年度の岩手県の小学校における小規模校（6学級以下の学校：特別支援学級を除く）の割合は67%で、複式学級を有する学校（5学級以下の学校：特別支援学級を除く）の割合は29%である。〈表1〉中学校では、小規模校（3学級以下の学校：特別支援学校を除く）の割合が36%で複式学級を有する学校（2学級以下：特別支援学級を除く）の割合は4%である。〈表2〉

小学校では、県内全体の半数を超える約7割が小規模校で、約3分の1が複式学級を有する学校となっている。中学校は、複式学級を有する学校はそれほど多くないが、小規模校は全体の3分の1を超えている。地域別にみると、小学校では、小規模校は沿岸南部、宮古、県北に多く、複式学級を有する学校は宮古と県北に多い。中学校は、小規模校は宮古と県北に多い。現在は、学校統合が進み、小規模校や複式を

有する学校が減少する傾向にあるが、地域によっては統合しても小規模校であったり、何年かすると複式学級ができたりする場合もある。

したがって、岩手県の教員は、教員としてのライフステージの中で、必ず小規模校に勤務し、特に小学校では複式を有する学校に勤務する可能性が非常に高いといえる。

【表1】

事務所（学校数）	小規模校数（%） * 6学級以下：特支学級除く	複式を有する学校数（%） * 5学級以下：特支学級除く
盛岡教育事務所（93）	49（53）	24（26）
中部教育事務所（49）	28（57）	11（22）
県南教育事務所（67）	45（67）	16（24）
沿岸南部教育事務所（31）	23（74）	5（16）
宮古教育事務所（37）	32（86）	19（51）
県北教育事務所（46）	38（83）	20（43）
合計（323）	215（67）	95（29）

（平成29年度 岩手県の小学校における小規模校と複式学級を有する学校）

【表2】

事務所	小規模校数（%） * 3学級以下：特支学級除く	複式を有する学校数（%） * 2学級以下：特支学級除く
盛岡教育事務所（46）	12（26）	3（7）
中部教育事務所（25）	4（16）	0（0）
県南教育事務所（29）	9（31）	1（4）
沿岸南部教育事務所（19）	11（58）	0（0）
宮古教育事務所（19）	10（53）	2（11）
県北教育事務所（22）	12（55）	0（0）
合計（160）	58（36）	6（4）

（平成29年度 岩手県の小学校における小規模校と複式学級を有する学校）

（2）岩手県教育委員会の取組

岩手県教育委員会では、毎年「学校教育指導指針」を作成して、教員一人一人に岩手県としての学校教育の方針と重点を示している。その中の「義務教育の充実（各学校の方針により重点化して取り組む内容の指導の要点）」として、「小規模・複式教育」を挙げている。〈図1〉また、岩手県教育委員会では、定期的に「岩手の小規模・複式リーフレット」を作成し、初めて複式指導を行う先生方に向けて複式指導のノウハウを紹介している。〈図2〉

さらに、各教育事務所では、毎年「複式指導改善講座」を開催して、管内の複式学級を担任する先生方の指導技術の向上に取り組んでいる。

【図1】

<p>小規模校や複式学級を有する学校の特質を積極的に生かし、学校、家庭、地域が連携協力した特色ある教育活動を展開するとともに、児童生徒一人一人のよさを生かす個に応じた指導の充実に努める。</p> <p>1 学校、家庭、地域が連携協力した特色ある教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域に根ざし、地域の文化や伝統、自然環境を生かした教材や体験活動の充実 ○近隣の小学校や校区の中学校等との連携した教育計画の立案と実践（集合学習、交流学習、異校種間交流等） <p>2 児童生徒一人一人のよさを生かす個に応じた指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○少人数・複式学級など学校の特質を生かした指導計画の改善・充実並びに学習指導過程の工夫 ○系統性や順序性を重視した指導の充実 ○岩手の小規模・複式リーフレットの活用
--

（平成30年度「学校教育指針」岩手県教育委員会より）

【図2】



(平成28年度)

(平成29年度)

(平成30年度)

(3) 岩手大学の取組

岩手大学教育学部では、学部卒業後に教員になる学生がへき地に赴任し、小規模校や複式を有する学校に勤務することを考え、毎年「小規模学校教育論」として集中講義を行っている。その内容は、学部での講義「小規模・複式教育概論」(1日)と、へき地の小・中学校校での体験実習「地域教育実習」(2泊3日)である。体験実習は、岩手県の葛巻町と西和賀町の2か所(H30は葛巻町のみ)で行われ、町の教育委員会教育長の講話や、訪問校の学校経営や教育活動・研究推進についての講話、授業参観や授業体験など、小規模校や複式を有する学校の学校経営や授業について体験的に学ぶ機会となっている。〈図3〉

【図3】



(4) 他大学における取組

平成30年度に日本教育大学協会の研究部会の中に「全国へき地・小規模校教育部門」が発足した。(事務局：北海道教育大学釧路校) 本学以外の大学においても、小規模・複式教育に係る取組を重視していることがわかる。(会員数：31大学74名) その中でも、北海道教育大学の「へき地体験実習カリキュラム」は、へき地教育を通じた教員養成の核となるものである。〈図4〉

【図4】



(平成30年度 へき地体験実習リーフレット)

(5) 小規模・複式教育に係る指導の状況（東北の各附属小学校）

平成29年度に、東北6県の国立教育大学（岩手大学を除く）の附属小学校に小規模・複式教育に係る指導の状況について下記の内容でアンケート調査を行った。〈図5〉その結果、複式学級を設置していない学校が多く、ほとんどの学校で教育実習における小規模・複式教育に係る指導が行われていないことがわかった。〈図6〉

【図5】

〈アンケート項目〉

1 複式学級の設置状況について

①貴校には、複式学級が設置されていますか。設置されている場合、学年構成と人数等について教えてください。

- ・複式学級を減らしてきている状況があるのではないかと思います。
- ・今後の方向性についてもお聞きしたいと思います。

2 小規模・複式教育の指導について

①教育実習において、小規模・複式教育について学生に行っている指導について教えてください。

- ・実習で意図的に指導している内容があれば教えてほしいと思います。

②学部において、小規模・複式教育について学生に行われている指導について教えてください。

- ・分かる範囲で学部での指導について教えてほしいと思います。

③貴県において、小規模・複式教育について行われている研修等について教えてください。

- ・分かる範囲で教育委員会等における研修について教えてほしいと思います。

3 その他

- ・小規模・複式教育の必要性等についてのご意見

【図6】

〈1について〉

	弘前大学	秋田大学	宮城教育大学	山形大学	福島大学
1・2年	○ 各8人計 16人	・設置なし	・設置なし	・設置なし	・設置なし
3・4年	○ 各8人計 16人	・設置なし	・設置なし	○ 各6人計 12人	・設置なし
5・6年	○ 各8人計 16人	・設置なし	・設置なし	・設置なし	・設置なし

〈2-①について〉

【弘前大学】

- ・集中実習の前に5時間、複式学級の授業を参観させ、主に児童の実態について省察させている

【秋田大学】【宮城教育大学】【山形大学】【福島大学】

- ・特になし

(6) 小規模・複式教育に係る実習カリキュラム (岩手大学教育学部附属小学校)

前述のように、東北の各附属小学校では、複式学級を設置していないこともあり、弘前大学教育学部附属小学校以外は小規模・複式に係る指導を全く行っていない。また、弘前大学の附属小学校も複式学級はあるものの、複式指導に係る研究はほとんど行っていない。東北の附属小学校の中では、岩手大学教育学部附属小学校だけが複式指導の研究を継続して行っているという現状である。

したがって、本学の附属小学校を活用した小規模・複式に係る実習をカリキュラム化し、学生の小規模・複式教育に関する知見を高めることは、本県のみならず東北各県の小規模・複式教育の向上に資するものである。そこで、1年生から4年生までに行われる実習の中に、小規模・複式教育に係る実習内容を系統性に配慮しながら位置付けて「小規模・複式の実習カリキュラム」を策定した。(図7)

1年次に行われる観察実習では、1年生の学生が2組に分かれて、3年生の学生が附属小学校で行う複式授業を参観する。この観察実習では全員参加のため、すべての学生が1年生の段階で複式という学級形態と複式の指導方法(附属小方式)を見ることができるので、小規模・複式教育への意識を醸成する機会となっている。

3年次に行われる主免実習では、実習校として附属小学校を選択した学生の中で、数名が複式学級に配属される。ただし、それ以外の学生も必ず附属小学校教員による複式の師範授業を参観し、複式指導についての講話を聞く。また、複式の授業研究会は学団ごとに行うので、附属小学校で実習を行う学生は全員、研究授業の参観と研究協議への参加によって複式指導の基礎を学ぶことができる。

【図7】

H30小規模・複式教育の教育実習カリキュラム

学年	1年次	3年次	*教職大学院
内容	◎ <u>観察実習(9月)(1日)</u> ・附属小学校の主免実習の学生が行う複式授業の参観 *全員対象	◎ <u>主免実習(8・9月)(4週間)</u> ・附属小学校の複式の授業参観と講話 *附属小学校配属学生対象 ・附属小学校の複式学級での主免実習 *複式配属学生対象	◎ <u>岩手の教育課題</u> 「小規模・複式教育」 (1年前期) ・附属小学校の複式授業の参観と講義等 *主にM1院生対象
その他	○ <u>集中講義による地域教育実習(8・9月)</u> ・集中講義(1日) ・小規模・複式校での地域教育実習(3日) *原則として4年生の希望者のみ		

*青は附属小学校での実習

3 今後の課題

(1) 2年次への実習の位置付け

学部では、1年生の観察実習と3年生の主免実習の間に2年生の体験実習（盛岡市内の小・中学校で実施）を行っている。体験実習の一環として、附属小学校の複式実習を半日行うことも可能である。朝から昼まで子どもと先生の動きを観察することで、複式学級ならではの学級経営や教育課程の編成、学年や学級での活動の様子を知ることができると思う。

(2) 3年次の実習内容の検討

3年生の主免実習では、附属小学校に実習配属された学生しか複式指導を学ぶことができない。主目実習期間に交換実習等の工夫により、学生同士のミニ研究会等を開くことも可能である。附属小学校の複式学級所属の学生が、自分たちの授業を通して他校の実習生に複式指導について説明したり、他校に実習生が複式の授業や指導について質問したりする機会をもてば、主体的に複式に係わろうとする態度の育成につながると考える。

(3) 4年次への実習の位置付け

4年生は、集中講義「小規模学校教育論」で、希望者による「地域教育実習」（葛巻町・西和賀町）を行っている。その他に、中学校コースの副免実習は附属小学校なので、実習内容を工夫すれば複式指導について学ぶことも可能である。中学校では見られない複式授業の参観と、担任による講話によって複式指導の基礎を学ぶことができると考える。

(4) 小規模・複式の教育実習カリキュラムの改善試案

上記の(1)から(3)をふまえて、「小規模・複式の教育実習カリキュラム」の改善試案を作成した。
 〈図8〉

【図8】

H30小規模・複式教育の教育実習カリキュラム（改善試案）

学年	1年次	2年次	3年次	4年次	*教職大学院
内容	◎観察実習（9月） （1日） ・附属小学校の主免実習の学生が行う複式授業の参観 *1年生全員	◎体験実習（10月） （3日間） ・附属小学校の複式学級の半日実習（3回に分けて実施） *2年生全員	◎主免実習（8・9月） （4週間） ・附属小学校の複式の授業参観と講話 *附属小配属学生 ・附属小学校の複式学級での主免実習 *複式配属学生 ・交流実習による複式指導の協議 *他校の実習生	◎副免実習（10月） （2週間） ・附属小学校の複式授業の参観と講話 *中学校免全員	◎岩手の教育課題「小規模・複式教育」（1年前期） ・附属小学校の複式授業の参観と講話 ◎総合実習（11月） （8日間） ・附属小学校の複式実習体験
その他	○集中講義による地域教育実習（8・9月） ・集中講義（1日） ・小規模・複式校での地域教育実習（3日） *原則として4年生の希望者のみ				

* 青は附属小学校での実習

（以上、文責：阿部真一）